

# SGEによる体験学習が管理栄養士として必要とされる

## コミュニケーション能力の向上に与える影響

Experience learning effect by Structured Group Encounter and  
improving communication skills of registered dietitians

吉田 真知子<sup>1</sup>, 岩瀬 靖彦<sup>2</sup>, 福島 哲夫<sup>3</sup>, 宇都宮 由佳<sup>2</sup>, 岡田 弘<sup>4</sup>

<sup>1</sup>大妻女子大学大学院人間文化研究科, <sup>2</sup>大妻女子大学家政学部, <sup>3</sup>大妻女子大学人間関係学部,

<sup>4</sup>東京聖栄大学健康栄養学部

Machiko Yoshida<sup>1</sup>, Yasuhiko Iwase<sup>2</sup>, Tetsuo Fukushima<sup>3</sup>, Yuka Utsunomiya<sup>3</sup>, and Hiroshi Okada<sup>4</sup>

<sup>1</sup>Graduate School of Studies in Human Culture, Otsuma Women's University

12 Sanban-cho, Chiyoda-ku, Tokyo, Japan 102-8357

<sup>2</sup>Faculty of Home Economics, Otsuma Women's University

12 Sanban-cho, Chiyoda-ku, Tokyo, Japan 102-8357

<sup>3</sup>Faculty of Human Relations, Otsuma Women's University

12 Sanban-cho, Chiyoda-ku, Tokyo, Japan 102-8357

<sup>4</sup>Healthy Nourishment Department, Tokyo Seiei University

1 Nishishinkoiwa, Katsushika-ku, Tokyo, Japan 124-8530

キーワード：管理栄養士, コミュニケーション, 構成的グループエンカウンター

Key words : Registered dietitian, Communication, Structured Group Encounter

### 抄録

2009年に策定された管理栄養士養成課程におけるモデル・コア・カリキュラムにおいて管理栄養士に必要な知識, 技術に加え, 対人業務の基本的な能力であるコミュニケーション能力を養うことに重点が置かれるようになった。

そこで本研究では, 管理栄養士に求められるコミュニケーション能力や技法を修得する方法として, SGEを活用した体験的学習の導入を提案し教育効果を検討した。尺度得点全体及び, 各因子においても有意な差が認められ, コミュニケーション能力の向上に対するSGEの効果を確認することができた。

### 1. 諸言

2002年に改訂された管理栄養士養成カリキュラム<sup>[1]</sup>および2009年に策定された管理栄養士養成課程におけるモデル・コア・カリキュラム<sup>[2]</sup>(以下コアカリ)において管理栄養士に必要な知識, 技術に加え, 対人業務の基本的な能力であるコミュニケーション能力を養うことに重点が置かれるようになった。管理栄養士同様, 医療に携わる医師・看護師のみならず, 一般の大学生においても必要不可欠な能力として指摘されている<sup>[3][4][5]</sup>。

そこで, 管理栄養士に求められるコミュニケーション能力や技法を修得する方法として, 構成的グループエンカウンター(Structured Group

Encounter以下SGE)を活用した体験的学習の導入を提案する。SGEは「ふれあい」と「自他発見」を下位目標としたグループアプローチである<sup>[6]</sup>。人間関係が作りやすく, 少数から多人数に対しても実施することができ, 目的に応じて多種のエクササイズを組み合わせて実践することが可能であることから, コミュニケーションの向上, さらには人間的成長が示唆されており, 教育分野や看護教育においてSGEを導入した研究報告がなされている<sup>[7][8][9]</sup>。本研究では, SGEによる体験的に学習によって, 管理栄養士となる学生のコミュニケーション能力や技法の修得にどのような効果があるかを検証することを目的とする。

## 2. 方法

### 1) 調査対象者・実施日及び調査方法

管理栄養士養成施設 A 大学の 3 年生の栄養教育・指導実習履修者で 2012 年 4 月から 7 月までの 4 か月間の授業を履修した学生 87 名を対象とした。効果測定は、授業前 (Pre)、3 回目の SGE エクササイズ終了後 (Post)、授業最終回 (After) の 3 回にわたり著者が作成した管理栄養士に必要とされるコミュニケーション能力評価尺度を用い、効果の測定を行った。全 3 回のエクササイズ及び Pre, Post, After の全調査を実施した学生、男性 17 名、女性 55 名の計 72 名 (82.8%) を分析対象とした。

表 1. 調査対象人数・調査実施日

項目	人数	実施日
対象者数	87	
Pretest エクササイズ1回目	84	4月9日
エクササイズ2回目	80	4月16日
エクササイズ3回目 Posttest	83	4月23日
Afterrtest	85	7月30日
分析 対象者数	72	

本研究は A 大学の倫理委員会の承認を得ていること、SGE によるコミュニケーション能力や技法の修得に対する効果を調査するものであること、調査は無記名であり記入の有無によって成績に影響はないことを口頭と文章で説明した。同意書への記入並びに調査用紙の提出をもって調査への同意とした。

### 2) SGE の実施方法

15 回の授業の内、1~3 回目の授業で SGE を実施した。A 大学の栄養教育・指導実習では、ライフステージ別の栄養教育プログラムの作成・実施・評価について学ぶことを目的とし、ライフステージ別の集団教育、グループ学習、個別栄養相談の 3 つについて実践を通して学ぶシラバスとなっている。SGE 実施日及び実施エクササイズを表 2 に示す。エクササイズは管理栄養士養成課程で

心理学、カウンセリング概論、自己表現法を教え、SGE を長年実践している教育カウンセラーと相談し構成した。

表 2. SGE 実施エクササイズ

	項目	目的
1 回目	①バースデーライン	非言語的コミュニケーション
	②合わせアドジャン・わかちあい	同調によるコミュニケーションスキル
	③インタビュー	質問 (好意の念の伝達)、開かれた質問、閉ざされた質問
	④他者紹介・わかちあい	要約・支持のコミュニケーションスキル
2 回目	①私の話を聞いて (拒否的な聞き方)	受容
	②視線による会話・手による会話・わかちあい	非言語的コミュニケーション
	③聞き上手・話し上手になろう	受容、座る位置のスキル
	④聞き上手・話し上手になろう、わかちあい	繰り返し・明確化・支持・質問 (開かれた質問・閉ざされた質問)
3 回目	①私のお願いを聞いて	自己主張、自己表現、共感的理解
	②私はアドバイザー	繰り返し・明確化・支持・質問・提案
	③私はアドバイザー	繰り返し・明確化・支持・質問・提案・沈黙への対応
	④肩もみエンカウンター、わかちあい	信頼体験、自己表現

本研究ではコアカリにおける「健康・栄養教育の実践と活用を理解する」の、「カウンセリングの基本と栄養教育への応用」に含まれる、カウンセリングの基本 (ラポールの形成、目標の共有、課題の明確化、クライアント中心)、傾聴的対応についての理解と技法 (受容、要約、理解したことを伝える、気持を受け止める、開かれた質問、閉ざされた質問、沈黙への対応) に対応するものを選定した。1 回目には、バースデーライン、合わせアドジャン、インタビュー、他者紹介を、2 回目には、私の話を聞いて、視線による会話・手による会話、聞き上手・話し上手になろうを、3 回目には、私のお願いを聞いて、私はアドバイザー、肩もみエンカウンターを実施した<sup>[6][10][11]</sup>。

エクササイズは、目的、ルールの説明、例示 (デモンストレーション)、実施、わかちあいの順番で行い、言葉での説明に加え身振り手振りでの説明、要点を示したパワーポイントを活用し、視覚でも訴えられるよう工夫を加えた。リーダーは初級教育カウンセラーと管理栄養士の資格を持つ筆者が行った。また、エクササイズ実施中は学生を観察

し、助言の必要なグループには声掛けを行なった。各エクササイズでのグループ編成には、授業で新しく編成されたグループによる今後のグループ活動への支援に加え、授業でのグループ以外のメンバーとの組み合わせも織り交ぜ、普段話すことのない人と積極的に係わる機会となるよう考慮した。

### 3) 分析方法

評価用紙は、筆者が作成し信頼性・妥当性が検証された管理栄養士に必要とされるコミュニケーション力評価尺度を使用し、Pre, Post, Afterそれぞれの平均値を算出し、1要因の分散分析（被験者内計画）により解析した。統計処理には、統計パッケージ Statistical Package for the Social Science Ver. 20.0（以下 SPSS）を用いた。

## 3. 結果と考察

### 1) Pre, Post, After による解析

尺度得点全体では、 $F(2,142) = 9.39$  で 0.1%水準で有意な差が認められた（図 1）。ペアごとの比較では、Pre と Post では 0.1%、Pre と After では 1%水準で有意な差が認められたが、Post と After では有意な差は認められなかった。因子別は、因子 1「共感・同調」因子では  $F(2,142) = 4.41$  で 5%水準で有意な差が認められた（図 2）。ペアごとの比較では、Pre と Post のみで 5%水準で有意な差が認められた。因子 2「かかわりスキル」因子では  $F(2,142) = 13.87$  で 0.1%水準で有意な差が認められた（図 3）。ペアごとの比較では、Pre と Post、Pre と After で 0.1%水準で有意な差が認められた。

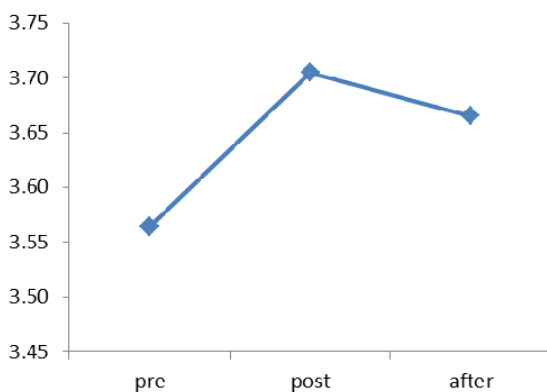


図 1. コミュニケーション能力評価尺度得点の変化

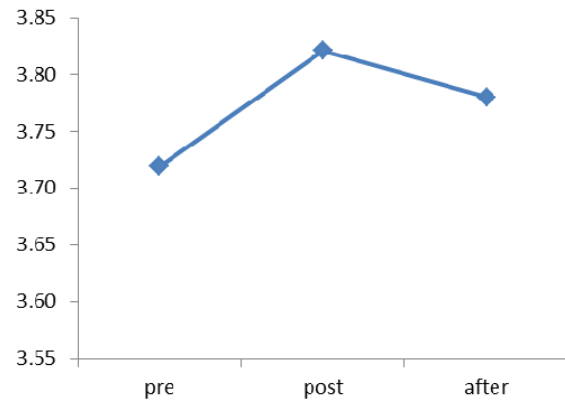


図 2. 「共感・同調」因子得点の変化

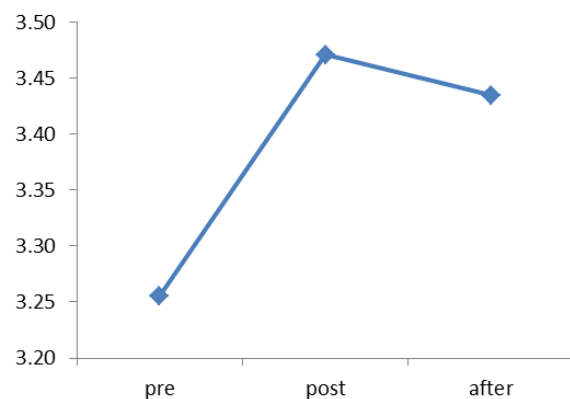


図 3. 「かかわりスキル」因子得点の変化

尺度全体、各因子において、Pre と Post、または Pre と After において有意な差が認められたが、Post と After においては有意な差が認められなかった。本来、Post と After においても有意な差が認められることが望ましいが、本研究において行った SGE は、全 15 回の授業において前半の 3 回の授業で集中的に行ったことにより、Post と After において有意な差が認められなかったことが考えられる。しかし、Post と After で顕著な低下が見られなかったことも SGE がコアカリのシラバスに合致した内容であり、授業内においても継続的な効果が認められたことは評価してよいであろう。しかし、さらなる効果を求めるには、介入変数を考慮しても、継続的な定着と向上への工夫が必要とされる。また、尺度別においては、「共感・同調」因子、「かかわりスキル」因子共に有意な差が認められたが、特に「かかわりスキル」因子において SGE の効果が大きいことが確認できた。これは、「かかわりスキル」因子に、相手との距離、座り方、明確化、要約、閉ざされた質問・開かれた質問など、エク

サイズの目的とされた項目が含まれたことが、有意的に作用したと考えられることから、「共感・同調」因子に含まれる項目に準じた内容を盛り込むことが必要と考えられる。

### 謝辞

本研究にご協力いただきました A 大学の学生の皆様に厚く御礼申し上げます。

### 付記

本研究は、平成 24 年度大妻女子大学人間生活文化研究所「共同研究プロジェクト」(D022) の助成を受けたものである。

### 引用文献

- [1] 厚生労働省.管理栄養士・栄養士養成施設カリキュラム等に関する検討会報告書について. 2001 [http://www1.mhlw.go.jp/shingi/s0102/s0205-1\\_11.htm](http://www1.mhlw.go.jp/shingi/s0102/s0205-1_11.htm) 1 (参照 2012-12-20) .
- [2] 特定非営利活動法人日本栄養改善学会理事会「管理栄養士養成課程におけるモデルコアカリキュラム」の提案, 栄養学雑誌, 2009, 67 (4), 202-232
- [3] 文部科学省. 21 世紀における医学・歯学教育の改善方策についてー学部教育の再構築のためにー医学・歯学教育の在り方に関する調査研究協力者

会議報告. 2001

[4] 厚生労働省.看護基礎教育の充実に関する検討会報告書. 2007

<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2007/04/s0420-13.html>(参照 2012-12-20).

[5] 平尾元彦他.コミュニケーション能力を高める大学教育科目の実践.山口大学大学教育機構, 2007, 4, 99-110

[6] 國分康孝他.構成的グループエンカウンター事典, 図書文化, 2004, 14-21

[7] 大脇百合子.看護職者の職場内エンカウンター・グループにおける体験ーグループ参加者の気持の変化に着目してー.日本看護管理学会誌, 2007, 11 (1), 20-29

[8] 岩崎朗子他.エンカウンター・グループが看護学生とのコミュニケーションの認識に与える影響.長野県看護大学紀要, 2006, 8, 61-69

[9] 坂本陽子他.「人間関係論演習」における構成的グループ・エンカウターの有用性の検討.日本赤十字九州国際看護大学 IRR, 2006, 5, 1-9

[10] 川崎市教育改革推進担当.かわさき共生＊共育プログラム 教師用指導テキスト, 川崎市教育委員会, 2010

[11] 日本教育カウンセラー協会.ピアヘルパーワークブック. 図書文化, 2002

### Abstract

It was in addition to knowledge necessary for a registered dietitian, a technique in the model core curriculum in a registered dietitian training course devised in 2009 so that an important point was put in feeding the communicative competence that was the basic ability of interpersonal duties. Therefore, in this study, I suggested introduction of the learning of utilized SGE as a method to acquire communicative competence and technique found by a registered dietitian, experiencing it and examined an education effect. A meaningful difference was recognized in the whole standard score and each factor and was able to confirm an effect of SGE for the improvement of the communicative competence.

(受付日：2013年5月15日，受理日：2013年5月23日)

吉田 真知子（よしだ まちこ）

現職：東京聖栄大学 健康栄養学部 助手

大妻女子大学大学院人間文化研究科修士課程修了。

専門は栄養教育，給食管理。現在は管理栄養士養成課程の助手として研究を継続している。